

■ テーマ展「井伊直亮の雅楽器収集-大コレクション形成の現場-」作品リスト ■

番号	名称	作者	数量	制作年代	所蔵
1	(彦根市指定文化財) 井伊直亮画像	賛: 仏洲仙英筆 画: 佐竹永海筆	1幅	江戸時代後期	清凉寺
【整理し、保管する】					
2	笙 銘海棠丸	覚仁作	1管	鎌倉時代 元亨3年(1323)	当館(井伊家伝来)
3	海棠丸笙代金請取証文		1通	江戸時代 弘化元年(1844)12月21日	当館(井伊家伝来)
4	琵琶 銘大虎		1面	室町時代	当館(井伊家伝来)
5	琵琶台	小堀重平作	1基	江戸時代 天保14年(1843)2月	当館(井伊家伝来)
6	箏 銘松風		1面	江戸時代	当館(井伊家伝来)
7	笙 銘蔦丸		1管	江戸時代	当館(井伊家伝来)
8	連管 銘巴絵		2管	江戸時代	当館(井伊家伝来)
【充実させる～新調・修復・命銘～】					
9	笙 銘鳳凰丸	頼尊作	1管	鎌倉時代 宝治元年(1247)	当館(井伊家伝来)
10	鳳凰丸笙匏蒔絵下絵		5枚のうち	江戸時代後期	当館(井伊家伝来)
11	箏 銘梅薫丸		1管	室町時代	当館(井伊家伝来)
12	和琴 銘葵	松本重行作	1面	南北朝時代 永徳元年(1381)	当館(井伊家伝来)
13	箏爪袋		1袋	江戸時代後期	当館(井伊家伝来)
14	羯鼓		1基	江戸時代	当館(井伊家伝来)
15	龍笛 銘三善丸		1管	江戸時代	当館(井伊家伝来)
16	神楽笛 銘呉竹		1管	江戸時代	当館(井伊家伝来)
【評価する～評価者と評価基準～】					
17	箏 銘須磨丸		1管	室町時代	当館(井伊家伝来)
18	連管 銘義経丸		2管	室町時代	当館(井伊家伝来)
19	龍笛 銘福原		1管	鎌倉時代	当館(井伊家伝来)
20	龍笛 銘秋風丸		1管	江戸時代	当館(井伊家伝来)
21	よしの丸につき書付	井伊直亮筆	1枚	江戸時代 天保13年(1842)5月	当館(井伊家伝来)
22	芳野丸笛伝来之間書	井伊直亮筆	1枚	江戸時代 天保14年(1843)10月	当館(井伊家伝来)
23	神楽笛		1管	室町時代	当館(井伊家伝来)
24	笙 銘桐	行円作	1管	鎌倉時代 建保5年(1217)	当館(井伊家伝来)
25	笙 銘群雀		1管	江戸時代	当館(井伊家伝来)
【支払う～懸け合いと分割～】					
26	笙 銘大信貴		1管	鎌倉時代	当館(井伊家伝来)
27	笙 銘小信貴	頼尊作	1管	鎌倉時代 文永2年(1265)	当館(井伊家伝来)
28	笙 銘萬歳丸		1管	室町時代	当館(井伊家伝来)
【情報収集し、書き留める】					
29	楽器類留	井伊直亮筆	2冊	江戸時代後期	当館(井伊家伝来)
30	管弦銘	菊岡内匠写	1冊	江戸時代 寛政9年(1797)9月	当館(井伊家伝来)
31	笙ノ寸法書		1枚	江戸時代後期	当館(井伊家伝来)
32	鶯丸笙之図取		5枚のうち	江戸時代 文政3年(1820)	当館(井伊家伝来)
33	鳳凰丸匏の切形 および蒔絵写		各2枚 計4枚	江戸時代後期	当館(井伊家伝来)
34	和琴入唐櫃図		1枚	江戸時代 天保15年(1844)	当館(井伊家伝来)

## 写真解説

\*番号は作品リストの番号と一致します。

### 2 笙 <sup>しょう</sup>銘海棠丸 <sup>めいかいどうまる</sup> 1管

覚仁作

総高46.6cm

鎌倉時代 元亨3年(1323)

当館蔵 (井伊家伝来)

直亮は、楽器を入手すると、整理番号札や概要を記したラベルを自ら作成し、もとの箱を保護する樅や杉材の保存箱を作成することしばしばでした。そして整理・保管方法として最も特徴的なのが、購入にあたって遣り取りをした書状や人から聞いた情報を記した覚え書き等、その楽器に関する文書類を楽器本体とともに丁寧に箱内に収めていることです。楽器台帳「<sup>がつきるいとめ</sup>楽器類留」(展示作品29)には、これら文書類に書かれた情報までも詳細に記しています。

この笙は86番と付番され、札には、この番号と名称、銘に記された制作年の元亨3年(1323)から直亮が入手した弘化元年(1844)まで522年であること、位は上々位であることが記されています。



笙 銘海棠丸とその附属品

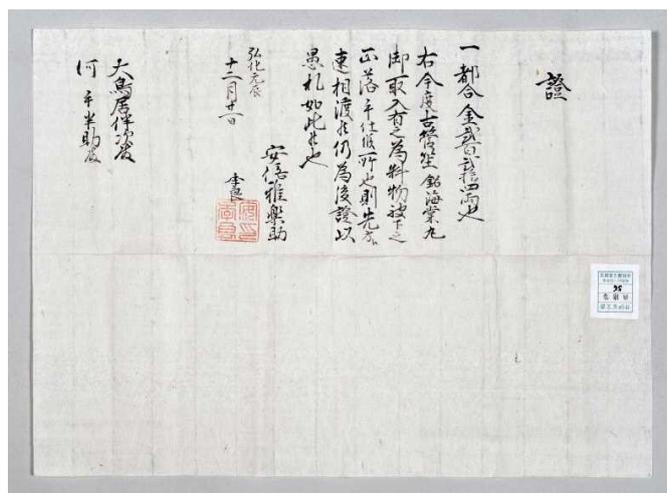
### 3 海棠丸笙代金請取証文 <sup>かいどうまるしょうだいきんうけとりしょうもん</sup> 1通

縦33.0cm 横45.0cm

江戸時代 弘化元年(1844)12月21日付

当館蔵 (井伊家伝来)

2の笙の代金受領証。代金は224両でした。売主と買主である直亮との仲介をした京の楽人、安倍季良(1776-1857)が発行したものです。安倍家は代々<sup>ひちりき</sup>箏の演奏を伝える家で、直亮は10代から季良に箏を習い、厚く信頼を寄せ、雅楽器の購入も季良を通じて行うことも少なくありませんでした。宛名の大鳥居伴次と河手<sup>おくごようつかいやく</sup>半助は、奥御用使役をつとめていた彦根藩士。



11 <sup>ひちりき</sup> 筆筧 <sup>めいばいくんまる</sup> 銘梅薫丸 1 管

全長18.1cm

室町時代

当館蔵（井伊家伝来）

京都・仁和寺宮の御物で、坊官長尾家に代々伝来したという筆筧。

箱の蓋表には銘の「梅薫丸」の文字を、蓋裏には銘に因んだ和歌が、いずれも直亮の筆跡をもとに金泥で書き付けられています。これは、源氏物語の早蕨<sup>さわらび</sup>の巻に見える歌で、直亮がしたためた和歌の紙も箱内に収められています。

〈和歌〉袖ふれし／梅はかわらぬ匂にて／ねこめうつろふ／宿やことなる



箱蓋裏の和歌と直亮の筆跡の和歌

18 <sup>れんかん</sup> 連管 <sup>めいよしつねまる</sup> 銘義経丸 2 管

（龍笛）全長41.0cm （狛笛）全長36.0cm

室町時代

当館蔵（井伊家伝来）

<sup>とうがく</sup> 唐楽に使う <sup>りゅうてき</sup> 龍笛と、<sup>こまがく</sup> 高麗楽に使う <sup>こまぶえ</sup> 狛笛のセット。狛笛は龍笛よりやや細く短く作られます。

この連管は、湖北の竹生島に伝来したもので、源義経所持との伝えがありました。直亮の所望により寺から献上されています。裏の蟬と呼ばれる部分に小枝が残されているので、寺では“青葉の笛”と呼んでいましたが、直亮が銘を義経丸に改めています。



裏の蟬の小枝

26 笙 銘大信貴 1管

総高51.3cm

鎌倉時代

当館蔵 (井伊家伝来)

27 笙 銘小信貴 1管

頼尊作

総高46.9cm

鎌倉時代 文永2年(1265)

当館蔵 (井伊家伝来)



奈良県の西部、生駒山地に位置する信貴山

朝護尊子寺に伝来した笙。信貴山には、行円と頼尊という2人の著名な笙の製作者がいました。大信貴の笙には行円の銘がありますが、後の時代に記されたものとみられます。

寺の譲渡証文と、仲介に入った京都の楽器商の神田からの売り込みの書状が伝わっています。直亮は初め、2管のうち、小信貴は小さくて補修も多いからいららないと言っていたのですが、交渉の末、2管で800両のところ、520両で購入しています。

29 楽器類留 2冊

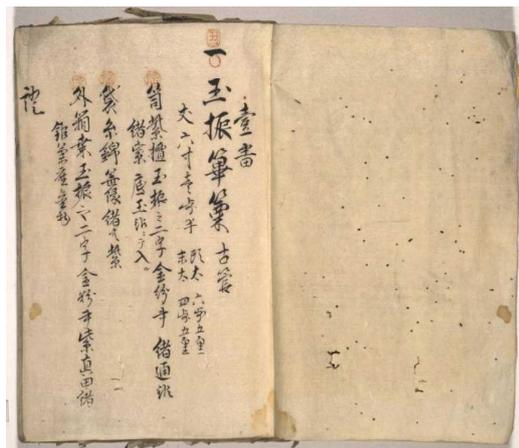
(写真は吹きものと打ちもの記載の冊子)

井伊直亮筆

各縦28.8cm 横20.0cm

江戸時代後期

当館蔵 (井伊家伝来)



(表紙)

直亮が記した雅楽器の道具帳。1冊は、吹きもの(笙・箏・箏・龍笛・狛笛・神楽笛など)

と打ちもの(太鼓・羯鼓・鉦鼓

など)が対象で、削除されたものも含めて計190件を収録し、もう1冊は弾きもの(琴・箏・琵琶など)119件を収録しています。先代直中から受け継いだものも若干含まれますが、ほとんどが直亮の収集品です。名称、数量、位付け、法量、銘記、品質形状、附属品の品質形状、伝来、取り入れに至る経緯、作品の鑑定等に関する書状や譲状等やその抜き書き等、丹念に記しています。